

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2024年7月30日

事業ID: 2023S02711

事業名: 長野県御代田町の「子ども第三の居場所」(B)コミュニティモデルにおける子どもへの体験機会の提供(2023)

団体名: 御代田の根

代表者名: 林 敦子 印

TEL: 080-6949-1605

事業完了日: 2024年6月30日

■契約時

事業費総額	:	650,000	円
自己負担額	:		円
支援金額	:	650,000	円

■箇所は(様式3)収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	660,709	円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	10,709	円	収支計算書の緑のセルの値
支援金額	:	650,000	円	収支計算書の赤のセルの値
支援金返還見込額	:		円	(収支計算書の青のセルの値)

1. 事業内容

■事業内容1

(1) 支援契約書記載の事業内容(予定)

1. 防災・ブッシュクラフトワークショップの実施  
 期間: 2023年7月、8月、10月、11月、3月  
 場所: みよたの広場および周辺の森  
 対象: 小学生および親同伴の未就学児  
 内容: ブッシュクラフトインストラクターであり、防災士でもある梨本利信さんを講師に、ブッシュクラフト・防災のワークショップを5回実施する。防災に必要な知識やスキルを習得してもらうことを目的とする

(2) 事業完了時の事業内容(実績)

1. 防災・ブッシュクラフトワークショップの実施  
 期間: 2024年4月、5月、6月  
 場所: みよたの広場および周辺の森  
 対象: 小学生および親同伴の未就学児  
 内容: ブッシュクラフトインストラクターであり、防災士でもある梨本利信さんにコーディネートしていただき、ブッシュクラフトWS(3回)・狩猟WS(1回)・原木椎茸づくりのWS(1回)、合計5回のWSを実施した。山での動物の習性・きのこの見分け方など、山で遭難した場合の対処法や防災に必要な知識やスキルを習得してもらえる機会を提供できた。



(3) 成功したこととその要因

ワークショップ形式にすることで、子どもたちは遊びの延長として防災の知識を学ぶ機会となった。また、連れてくる大人にとっても有益な時間となっており、子どもたちが学びの機会に参加しやすいイベント設計にすることができていた

(4) 失敗したこととその要因

WSの内容に合わせて、開催時期を変更した。1回のイベントに、複数のブッシュクラフトワークショップ内容を詰め込むことで、狩猟やきのこについてなど、幅広い体験の機会を創出する方針に変更した。

(5) 事業内容詳細

### 1. ロープワーク講習

緊急時に寝床を作るために必要なシェルターづくりを通じて、ロープワークを学ぶ講習。広場に集まってきた木材(森にもあるようなもの)の中から、使いやすいものを選び、それらの木材をどう結び、シェルターの骨格を作るかを学んだ。講習では簡易的にブルーシートを使用した。有事の際に代替できるものなどもレクチャーしてもらった。

### 2. ナイフワーク講習

竹を加工して箸をつくることを通じてナイフワークの基礎を学んだ。習熟度に応じて、ナイフ1本で木を切断する方法など、よりレベルの高いナイフワークを習得し、有事の際の生きる力を養った

### 3. 焚き火ワークショップ

ライターやマッチはもちろん、濡れても使用できるメタルマッチで火付、有事の際に着火剤として活用できる身近なもの(ワセリン、チョコレートなど)への着火も実践した。有事の際にあかりや暖を取るための知恵を学んだ。

### 4. 狩猟ワークショップ

猟の基礎を通じて、鹿や熊、小動物の習性を学び、森で生き延びるために必要な知識を学んだ。また、鹿を狩ったあとの解体・加工も実践した。

### 5. きのことワークショップ

原木椎茸のタネコマ打ちをしながら、その他のキノコの生態についても学んだ。キノコの見つけ方、食べられるキノコの見分け方、その実践的なスキルの学び方まで、森で食料を調達するための知識を習得した。

## ■事業内容2

### (1)契約時の事業内容

#### 2. 食のワークショップの実施

期間:2023年7月、8月、12月、2024年4月、5月

場所:みよたの広場および地域周辺の山など

対象:小学生および親同伴の未就学児

内容:アトリエromを運営する料理研究家の岡本雅恵さんにディレクションをお願いし、季節の果実を使った果実シロップ、漬物などの保存食づくりなど、地域の身近な自然資源を生かした食のワークショップを5回実施する。それらのワークショップできたものを日々の子どもたちのおやつ・おかずにすることで、自分で食べているものの成り立ちを理解できる環境をつくる。

### (2)事業内容の実施(完了)状況

#### 2. 食のワークショップの実施

期間:2024年4、5、6月

場所:みよたの広場および地域団体の拠点など

対象:小学生および親同伴の未就学児

内容:アトリエromを運営する料理研究家の岡本雅恵さんにコーディネートしていただき、野草WSを運営されている阿部奈々恵さんを講師にお招きした野草ワークショップを3回開催した。



### (3)成功したこととその要因

お子さん連れの多くの方に参加してもらい、食べられる野草のレクチャーとその具体的な調理方法から実食に至るまで、広場らしい食のワークショップを実施することができた。

### (4)失敗したこととその要因

季節のフルーツを使った果実シロップなどは、地域の方との関係構築によりお手頃に果実を手に入れられることを想定した企画であったが、そのような関係性を作りきれなかったことからワークショップの方向性をシフトした。

### (5)事業内容詳細

#### よもぎふりかけ／オイルワークショップ

春のよもぎを使って、よもぎオイルの抽出およびそのオイル抽出後のよもぎを生かしたふりかけの作り方を学んだ。よもぎを摘む時期や食べるのに適した部位などよもぎの生態に関することから、よもぎオイルの活用法・ふりかけの効能に至るまで、よもぎについての総合的な知識を獲得した。

#### たんぼぼシロップワークショップ

たんぼぼが育つ過程のレクチャーに始まり、たんぼぼ摘み、たんぼぼシロップ用の下処理などを参加者みんなで実施した。身近なたんぼぼを食べるといった経験から、野草との距離が縮んだとの感想が印象的だった。

#### 野草チヂミワークショップ

これまではいわゆる”雑草”と認識していたものが、実は食べられる(しかも美味しい)ことを知ることができた。どこでも目には見えない野草5、6種類に詳しい生態などを解説しながら実食した。野草のプランツの仕方によって、個性の異なるチヂミが

兄かける野早の、6種類に絞り、生態などを解説しながら美味しく。野早のフロントの協力により、個性の異なるナマキができることがわかり、自分でブレンドできるようになりたいと言った感想が寄せられた。

### ■事業内容3

#### (1)契約時の事業内容

3. 料理体験およびオープンディナーの実施  
期間:2023年7月、8月、9月、10月  
場所:広場内  
対象:小学生および親同伴の未就学児  
内容:子どもたちの料理づくり体験のイベントを開催する。料理体験の機会を提供するとともに、料理を地域の方々に振る舞うオープンディナーを開催し、地域の方々との交流の機会を生み出す。運営は地域の有志を募り、広場運営に関わってくれる近隣住民を増やす機会とする。

#### (2)事業内容の実施(完了)状況

3. 料理体験およびオープンディナーの実施  
期間:2024年12月、2024年1、2、3、4、5月  
場所:広場内  
対象:小学生および親同伴の未就学児  
内容:子どもたちの料理づくり体験のイベントを開催する。料理体験の機会を提供するとともに、料理を地域の方々に振る舞うオープンディナーを開催し、地域の方々との交流の機会を生み出す。運営は地域の有志を募り、広場運営に関わってくれる近隣住民を増やす機会とする。



#### (3)成功したこととその要因

子ども食堂(子どもたちは無料)のスタイルで運営したこと、毎月1回第1日曜日で開催日を固定したことで、地域の学校の子どもたちが毎月楽しみにしてくれるイベントになった。地域のさまざまな人と会話を楽しみながら、包丁を使ったり、焚き火調理をしたりとアウトドアでの調理体験の機会を提供できている

#### (4)失敗したこととその要因

運営に関わってくれる近隣住民の巻き込みは少しずつできているが、まだ中心的なメンバーなしでは運営ができないため、今後更なるコアメンバーの獲得を目指したい。

#### (5)事業内容詳細

2023年12月から毎月1回、第1日曜日に固定し、「カレーの日」と称したイベントを開催した。その場で出会った子どもと大人が協力し、カレーの具材を切ったり、火を起こしてお米を炊いたりするなどしながら、会話を楽しんだ

### ■事業内容4

#### (1)契約時の事業内容

4. 保育・運動環境の整備  
児童の成長に欠かせない図書などの購入や運動時間が不足している児童等のための基礎的な体力をつける備品の購入

#### (2)事業内容の実施(完了)状況

4. 保育・運動環境の整備  
児童の成長に欠かせない図書などの購入や運動時間が不足している児童等のための基礎的な体力をつける備品の購入



#### (3)成功したこととその要因

子どもたち向けの書籍だけでなく、子どもを育てる親の視点を養うための本も購入した。昨年度購入した子ども向けの書籍と合わせて、子ども、子どもを育てる親も同時に学べる環境を整備することができた。

#### (4)失敗したこととその要因

運動備品についてはリサイクルセンターなどで安く手配することができたため、本事業以外から捻出した

#### (5)事業内容詳細

合計64冊分の書籍購入

## 2. 契約時事業目標の達成状況:

### (1) 支援契約書記載の目標

1. 防災・ブッシュクラフトワークショップの実施(5回)
2. 食のワークショップの実施(5回)
3. 料理体験およびオープンディナーの実施(5回)
4. 保育・運動環境の整備

### (2) 目標の達成状況 [700文字以内]

入力文字数	88	文字数チェック	OK
1. 防災・ブッシュクラフトワークショップの実施(5回) 2. 食のワークショップの実施(3回) 3. 料理体験およびオープンディナーの実施(6回) 4. 保育・運動環境の整備			

## 3. 事業実施によって得られた成果

ブッシュクラフトワークショップ/狩猟ワークショップを通じて、有事の際に生き延びる力として何が必要か？を伝えることができた。また、食のワークショップを通じて、食糧危機に陥った際にも身近なもので美味しい食事を摂るための基本的な知識を獲得した。いずれも、継続的な研鑽が必要になるが、購入した書籍などを通じて自主的な知識獲得し、有事の際に必要な力を育てるきっかけを与えられたと考える。

料理体験イベントは、地域の大人と子どもが交流する機会として機能しており、多様な大人に触れるきっかけを与えられている。あえて課題のある子どもたちにフォーカスしすぎないことで、潜在的な悩みを抱えている子たち・小さな悩みを抱えている子どもたちの早期発見・ケアが行き届きやすくなっていると考ええる。

## 4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

各企画の対象は、子どもを中心としつつ、大人にも興味を持ってもらえるものを意図していた。実際は、大人が積極的に参加し、子どもたちは拠点内を遊びながら参加する形になっているイベントもあり、子どもたちにのめり込んでもらえるようなワークショップの運営スタイルを模索していきたい。

--

5.事業成果物

(1)支援契約書記載の成果物名称

完了報告書
-------

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書
-------

(3)未作成となった要因

なし
----

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

--